

2014 年度 研究センター事業報告書

研究センター名	環太平洋文明研究センター
研究センター長名	安田 喜憲

I. 研究成果の概要

本欄には、研究センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、研究センター5か年計画に記載した内容に照らし、項目立てなどをおこなないできるだけわかりやすく記述してください。

■拠点全体の研究成果

①年縞の発見:コロンビア・グアタビータ湖において予備調査を行い、年縞を発見し、現在分析中である。来年度コロンビアで分析速報を発表し本格的な調査を行なう予定である。②地震データベースの作成:日本列島周辺における1923年～2014年までのM1以上の地震について汎用性の高いデータベースを作成(高橋学,2014年7月)、また、成果の一部や分析結果は、メディア等を通じ、広く一般に情報発信された。③研究協定の締結:海外ではコロンビア環境省とロスアンデス大学、国内では静岡県ふじのくに地球環境史ミュージアムと研究協定を締結し、拠点形成に向けた取り組みを積極的に行なっている。④シンポジウムの開催と出版:R-GIROとの共催にて、「アジアの環境変化と人類」(2014年12月19日、衣笠キャンパス)、さらに、当研究拠点第2回目となる九州・宗像シンポジウム「対馬海峡と古墳文化」(12月22・23日、宗像市)を開催、また環太平洋文明叢書の第一弾として「津軽海峡圏の縄文文化」(雄山閣,217p)を刊行し、当拠点研究成果を広く一般に発信した。

■各グループの研究成果

第1班(文化人類学):環太平洋地域における人間＝環境関係について、フィールドおよび文献調査によるデータの集積を中心に進めた(カナダ:渡辺、カナダ:森下、パナマ:近藤、モンゴル:富田)。これらの成果を共有するために研究会を実施し、各人の調査・研究に対して意見交換を行なうとともに、今後の研究の方向性について検討した。さらに、これまでに実施してきた調査・研究の成果をもとに、各メンバーが国内外で積極的に研究発表を行なうとともに、国際ワークショップ「How Forests Think 森はいかに思考するのか」を開催し、「人間＝環境関係」を検討するための方法について議論を行なった。

第2班(環境考古学):コロンビア グアタビータ湖と、韓国済州島ハノンマール・榛名山中腹の湿原、福井県北潟湖・日向湖・菅湖の合計6ヶ所においてコアリング調査を行ない、すべての地点において堆積物の採取に成功している。特に、コロンビアでの予備調査で年縞が確認でき、約30cm、およそ300年間分(1mm/年に堆積すると仮定した場合)の堆積環境を保存していると推測できる。現在分析中であり、来年度、コロンビアで分析速報を発表予定であり、同時期に湖底から約4m長さのコアを採取する本格的な調査を行なう予定である。これにより、災害を含む古環境変化を復元する予定である。

第3班(縄文考古学):研究課題1「縄文文化の起源と終焉を中心とするGISデータベース構築研究」では、関西地方の住居・墓約5800基、石器約1万点などについてデータベース構築を進めた。研究課題2「遺跡調査におけるミクロな情報の活用」では、京都府向日市で採取した5万年間以上におよぶ土壌コア試料の分析を実施し、京都盆地における縄文時代の洪水頻発期(5700年前頃、縄文前期)を発見し、関連資料の深さ15mコアの採取を行なったほか、米原市杉沢遺跡(縄文晩期土石流堆積層含む)の正式発掘調査報告書を刊行した。琵琶湖葛籠尾崎湖底遺跡の調査を実施し、新たな土器埋没地点を発見した。また、尾関清子氏(東海女子短期大学・名誉教授)から寄贈された縄文時代の編み物関係の資料整理を行ない、研究会を開催した。以上、縄文文化から弥生文化への移行解析における情報基盤の整備とデータ・資料の解析を進めた。

第4班(災害地理学):今年度は、震度1以上を記録した日本における地震データベースが、1923年以降現在まで完成した。コロンビアにおいては、一見火口湖のようにみえるグアタビータ湖が、周辺地形地質調査により頁岩や砂岩から構成されており、火口湖でないことが判明した。また、1985年にネバドデルルイス山の爆発の影響で山頂付近の雪氷が融けて、土石流となり下流に位置するマニサレスの街を襲い、人口25000人のうち21000人の住民が生き埋めになった「マニサレスの悲劇」が生じた背景に、標高4000m以上まで森林を破壊し、土壌浸食により大量の土砂が谷を埋めていて、それが融雪水で土石流と化したことを明らかにできた。さらに、この災害前後の空中写真や精密な地形図などを入手できたことで、被災前のマニサレスの街の景観や機能が復原できる見通しがついた。なお、4月13日に急逝した河角龍典教授が行っていた洪水シミュレーションについては、高橋が受け継いで今後継続していく予定である。

II. 拠点構成員の一覧

本欄には、2015年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員研究員等の構成員を全て記載してください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③学振特別研究員(PD・RPD)、④博士後期課程院生・一貫制博士課程3回生以上に在籍する院生

役割	氏名	所属	職位	
センター長	安田 喜憲	衣笠総合研究機構	教授	
副センター長	渡辺 公三	先端総合学術研究科	教授	
運営委員	高橋 学	文学部	教授	
	矢野 健一	文学部	教授	
	河角 龍典	文学部	教授	
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	原 毅彦	国際関係学部	教授	
	小川 さやか	先端総合学術研究科	准教授	
学内の若手研究者	専門研究員・研究員	富田 敬大	立命館グローバル・イノベーション研究機構	専門研究員
		篠塚 良嗣	立命館グローバル・イノベーション研究機構	専門研究員
		中村 大	立命館グローバル・イノベーション研究機構	専門研究員
	補助研究員・リサーチアシスタント			
	学振特別研究員 (PD・RPD)	石田 智恵	日本学術振興会	特別研究員(PD)
	博士後期課程院生・一貫制博士課程3回生以上に在籍院生	モリ カイネイ	先端総合学術研究科	博士後期課程院生
		梁 説	先端総合学術研究科	博士後期課程院生
		岩田 京子	先端総合学術研究科	博士後期課程院生
		原田 昌浩	文学研究科	博士後期課程院生
		谷端 郷	文学研究科	博士後期課程院生
その他の学内者 (非常勤講師・研究生・研修生等・博士前期課程院生等)	近藤 宏	国立民族学博物館	外来研究員	
	中塚 良	公益財団法人向日市埋蔵文化財センター	主任	
	上峯 篤史	日本学術振興会	特別研究員(PD)	
客員協力研究員	市木 尚利	ペルー・リマ日本人学校	常勤講師	
	小野 林太郎	東海大学海洋学部海洋文明学科	准教授	
	嘉幡 茂	ラス・アメリカス大学社会科学部人類学科	准教授	
	岸本 吉生	経済産業省九州経済産業局	局長	
	北川 淳子	福井県里山里海湖研究所	主任研究員	

	坂井 正人	山形大学人文学部	教授
	塩谷 崇之	真和総合法律事務所	弁護士
	篠上 雄彦	日本検査キューエイ株式会社審査本部審査第3部	理事審査員
	清水 昭	国家公務員共済組合連合会三宿病院脳卒中センター	センター長
	瀧上 舞	日本学術振興会	特別研究員(PD)
	竹田 武史		写真家
	竹林 征雄	アマタホールディングス株式会社	取締役
	谷口 正次		資源・環境ジャーナリスト
	谷家 衛	あすかアセットマネジメント株式会社	代表取締役会長
	中井 徳太郎	環境省大臣官房	秘書課長
	長野 麻子	農林水産省食料産業局バイオマス循環資源課食品産業環境対策室	室長
	中山 厚	財務省国税不服審判所	次長
	那須 浩郎	総合研究大学院大学先導科学研究科	助教
	野嶋 洋子	国際日本文化研究センター	プロジェクト研究員
	長谷川 悦夫	埼玉大学教育機構	非常勤講師
	藤木 利之	岡山理科大学理学部基礎理学科	講師
	村山 茂樹	日刊工業新聞社編集局第二産業部	記者
	森下 直紀	和光大学経済経営学部	講師
	山田 和芳	静岡県ふじのくに地球環境史ミュージアム整備課	准教授
	吉澤 保幸	ぴあ株式会社	取締役 CCO
その他の学外者 (他大学教員・若手研究者等)	外山 秀一	皇學館大学	教授
	森 勇一	金城学院大学	講師
	Xun Li	ニュージーランド・GNS Science	Researcher
	福本 侑	九州大学大学院理学府	博士後期課程院生
	千葉 豊	京都大学文化財総合研究センター	准教授
	丸山 真史	京都市埋蔵文化財研究所	所員
	大野 薫	大阪府立狭山池博物館	嘱託
	松森 智彦	同志社大学高等研究教育機構	特別任用助教
	佐々木 尚子	京都府立大学	特別研究員
	木村 浩章	日本学術振興会	特別研究員(PD)
研究所・センター構成員 計 54名 (うち学内の若手研究者 計 9名)			

Ⅲ. 研究業績

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2015年3月31日時点)

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	矢野健一	人類はなぜ・いつ定住したか	単著	2014年4月	考古学研究会, 考古学研究会60周年記念誌 考古学研究60の論点	考古学研究会編	PP. 11~12
2	嘉幡 茂	メソアメリカを知るための58章(エリア・スタディーズ130)	分担	2014年5月	明石書店	井上幸孝編	PP. 372
3	矢野健一	週刊朝日百科 週刊新発見!日本の歴史 50 弥生	編著	2014年6月	朝日新聞出版	高瀬克範, 小畑弘己, 佐々木由香, 溝口孝司, 小林美沙子, 中村豊, 岡田憲一, 本村充保, 絹島歩, 田畑直彦, 三谷芳幸	PP. 4~6, 10~15
4	千葉豊	史料を読み解く	単著	2014年6月	朝日新聞出版, 週刊朝日百科 週刊新発見!日本の歴史, 49号	関根達人編	PP. 28~29
5	高橋学	環境史からみた東北地方・太平洋沖地震の津波被害	共著	2014年7月	文理閣, 災害の地理学	吉越昭久編	PP. 45~66
6	森下直紀	原子力総合年表——福島原発震災に至る道	共著	2014年7月	すいれん舎	原子力総合年表編集委員会	PP. 896
7	小川さやか	日本の中古品は中国の新品より売れる—インフォーマル製品を求めてアフリカ商人が集う中国・広州	単著	2014年9月	株式会社ウエッジ, 『Wedge』9月号		PP. 34~37
8	富田敬大	第9章 牧畜開発の動向—進む政策転換と集約的牧畜の導入	単著	2014年9月	明石書店, 『現代モンゴルを知るための50章』	小長谷有紀・前川愛編著	PP. 53~57
9	富田敬大	第12章 遊牧の定着化—変貌する都市周辺地域	単著	2014年9月	明石書店, 『現代モンゴルを知るための50章』	小長谷有紀・前川愛編著	PP. 80~83
10	森下直紀	水俣病事件史にみる公害と人権	単著	2014年9月	明石書店, 『グローバル社会と人権問題—人権保障と共生社会の構築へ向けて』	李修京編	PP. 171~175
11	渡辺公三	人類学的思考の戦場(バトルフィールド)	単著	2014年10月	東京外国語大学出版会, 『山口昌男 人類学的思考の沃野』	真島一郎・川村伸秀編	PP. 40~46
12	Kainei Mori	Overseas Chinese Protestant Churches in Japan: Changes as witnessed from their Stance toward Christian Mission Activities	単著	2014年10月	World Scientific, After Migration and Religious Affiliation: Religions, Chinese Identities and Transnational Networks	Chee-Beng Tan (ed)	PP. 241~272
13	外山秀一	朝鮮半島における青銅器時代の稲作農耕と地形環境	単著	2014年10月	韓国考古環境研究所・韓国青銅器学会, 『青銅器時代の考古学 第1巻 人間と環境』	李 弘鐘・李 僖珍編	PP. 133~145
14	安田喜憲	環太平洋文明叢書1『津軽海峡圏の縄文文化』	共著	2015年2月	雄山閣	阿部千春	PP. 217
15	安田喜憲	年縞が解明する縄文の人類史的意味とその開始をめぐる	単著	2015年2月	雄山閣, 『津軽海峡圏の縄文文化』		PP. 8~34
16	矢野健一	日本列島に展開した縄文文化と文化領域—その課題	単著	2015年2月	雄山閣, 『津軽海峡圏の縄文文化』	安田喜憲・阿部千春編	PP. 36~48
17	篠塚良嗣, 山田和芳	年縞による縄文時代における気候変動	共著	2015年2月	雄山閣, 『津軽海峡圏の縄文文化』		PP. 49~68
18	中村大	数字で読みとく土偶と環状列石—定量的分析の可能性—	単著	2015年2月	雄山閣, 『津軽海峡圏の縄文文化』	安田喜憲・阿部千春編	PP. 127~146

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	安田喜憲	東北の復興とあらたな生命文明の曙	共著	2014年4月	『第三文明』4月号, 第三文明社	梅原猛, 東根千万億	PP. 20~25	無
2	Yoshitsugu Shinozuka, Kazuyoshi Yamada, Hiroo Nasu, Toshiyuki Fujiki	Investigaciones Arqueológicas y Paleambientales en y alrededor de Ceibal, Peten, Guatemala	共著	2014年4月	XXVII Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala	Aoyama, Kazuo, Hitoshi Yonenobu, Takeshi Inomata, Katsuya Gotanda, and Yoshiharu Hoshino	PP. 987~995	無
3	上峯篤史	斑晶観察法による「前期旧石器」の再検討—出雲市砂原遺跡における事例研究	単著	2014年4月	旧石器文化談話会, 旧石器考古学, 79		PP. 1~16	有
4	Toshiyuki Fujiki	Vegetation changes viewed from pollen analysis in Rarotonga, Southern Cook Islands, Eastern Polynesia	共著	2014年4月	Radiocarbon, 56 (2)	M. Okuno, H. Moriwaki, T. Nakamura, K. Kawai, G. McCormack, G. Cowan, P. T. Maoate	PP. 699~708	有
5	外山秀一	韓国密陽サルレ遺跡・新安遺跡の植物圧痕の同定	共著	2014年4月	中山誠二編『日韓における穀物農耕の起源』（平成22~25年度日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究B「日韓内陸盆地における穀物農耕の起源に関する科学的研究」報告書）	他4名	PP. 217~224	無
6	外山秀一	韓国華城石橋里遺跡における新石器時代の植物圧痕	共著	2014年4月	中山誠二編『日韓における穀物農耕の起源』（平成22~25年度日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究B「日韓内陸盆地における穀物農耕の起源に関する科学的研究」報告書）	他4名	PP. 226~229	無
7	外山秀一	韓国安山大阜北洞遺跡における新石器時代中期の植物圧痕	共著	2014年4月	中山誠二編『日韓における穀物農耕の起源』（平成22~25年度日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究B「日韓内陸盆地における穀物農耕の起源に関する科学的研究」報告書）	他4名	PP. 230~235	無
8	外山秀一	プラント・オパール分析からみた筋違遺跡の地形環境と土地利用	単著	2014年4月	三重県埋蔵文化財センター, 『筋違遺跡（第2・3次）発掘調査報告書』		PP. 83~99	無
9	森下直紀	水俣病事件史を世界へ—第9回水俣病事件研究交流会報告	単著	2014年5月	熊本学園大学水俣学研究センター, 『水俣学通信』, 第36号		PP. 4	無
10	梁説	京都市東九条地域に見る民衆文化ダイナミズム—東九条マダンからの「マダン劇」再考	単著	2014年6月	公益財団法人大学コンソーシアム京都, 『公益財団法人大学コンソーシアム京都 都市政策研究助成研究報告論文集』		PP. 5~54	無

11	Takahiro Tomita	A Conflict between Migration and Settlement?: Pasture Usage and Management in Post-Socialist Mongolia	単著	2014年7月	İstanbul Esnaf ve Sanatkarlar Odaları Birliği (İSTESOB), The Central Asiatic Roots of Ottoman Culture	Ilhan Sahin, Baktibek Isakov, Cengiz Buyar (eds)	PP. 285~293	無
12	藤木利之	長崎湾鮑の浦沖ボーリングコアの化石花粉群集からみた完新世の古植生変遷	単著	2014年7月	月刊地球418		PP. 219~226	無
13	小川さやか	グローバルな消費のモードと連接するローカルな生産・流通モード	単著	2014年9月	国立民族学博物館, 『民博通信』, 146号		PP. 22~23	無
14	嘉幡茂	テオティワカン- 『神々の都』の誕生と盛衰	単著	2014年9月	岩波書店, 文明の盛衰と環境変動: マヤ・アステカ・ナスカ・琉球		PP. 55~71	無
15	Junko Kitagawa, Yoshinori Yasuda	Traditional Farming Landscapes for Sustainable Living in Scandinavia and Japan:	共著	2014年9月	Global Revival Through the Satoyama Initiative. AMBIO 43(5), DOI 10.1007/s13280-014-0499-6	Berglund, Björn E., Per Lagerås, Koji Nakamura, Naoko Sasaki	PP. 559~578	有
16	安田喜憲	特集里山を守る: 命をつなぐ里山	単著	2014年10月	地方議会人 11月号		PP. 28~32	無
17	Takahiro Tomita	Development Policy and Social Changes in a Suburban area of Mongolia: Application of the DiMSIS-EX to an Anthropological Research	共著	2014年10月	University of Crete, New Trend in Ottoman Studies	Shigeru Kakumoto, Marinos SARIYANNIS (eds)	PP. 930~943	無
18	森下直紀	アメリカ環境史	単著	2014年10月	上智大学, 『ソフィア』, 61巻2号		PP. 74~76	無
19	森下直紀	書評論文「アメリカ環境史」	単著	2014年10月	季刊誌『ソフィア』61		PP. 83~85	無
20	小川さやか	動く人 都市の不確実性に身をゆだねる	単著	2014年11月	太田出版, 『at プラス』, 22号		PP. 50~69	無
21	小川さやか	第3章タンザニアにおける衣料品の消費行動に関する考察—中古衣料品と中国・東南アジア製衣料品の供給システムの違いに着目して	単著	2014年11月	アジア経済研究所, 『国際リユースと発展途上国』	小島道一編	PP. 36~61	無
22	Junko Kitagawa, Toshiyuki Fujiki, Kazuyoshi Yamada, Yoshinori Yasuda	Human impact on the Kiso-hinoki cypress woodland in Japan: a history of exploitation and regeneration	共著	2014年11月	Vegetation History and Archaeobotany 23, DOI 10.1007/s00334-013-0423-1	Yasuharu Hoshino, Hitoshi Yonenobu	PP. 649~664	有
23	小川さやか	Living for Today の人類学第1回「わたしたちは「怠け者」に憧れている？」	単著	2014年12月	光文社, 『小説宝石』, 1月号		PP. 76~83	無

24	松森智彦, 中村大	『防長風土注進案』 記載の魚類と村落： 系統樹による村落の 階層化と特徴的魚類 の検出	共著	2014年12 月	情報処理学会, じんもんこん 2014 論文集, 2014年3号	五島淑子	PP. 169~176	有
25	嘉幡茂	メキシコ中央高原に おける初期国家形成 の解明に向けてート ランカレカ考古学 プロジェクト	共著	2014年12 月	『古代アメリカ』17号, 古代 アメリカ学会	村上達也, ロベス・ Jフリエタ・M, 他	PP. 53~71	有
26	小川さやか	Living for Today の 人類学第2回「最小 限の努力で生きる 「情の経済」社会」	単著	2015年1月	光文社, 『小説宝石』, 2月号		PP. 100~107	無
27	中村大	『防長風土注進案』 の村別地図データ作 成	共著	2015年1月	山口大学教育学部, 山口大学 教育学部研究論叢, 64巻第1 部	五島淑子	PP. 73~82	無
28	松森智彦, 中村大	『防長風土注進案』 の産物記載にみる食 品目録(2)ー魚介 類・海藻類を中心にー	共著	2015年1月	山口大学教育学部, 山口大学 教育学部研究論叢, 64巻第1 部	山根麻希, 五島淑子	PP. 83~96	無
29	中村大	GIS による墓地分析 ー縄文晩期の東北北 部を例にー	共著	2015年1月	雄山閣, 季刊考古学, 第130 号		PP. 76~78	無
30	小川さやか	Living for Today の 人類学第3回「タン ザニア都市住民の予 定表のない生き方」	単著	2015年2月	光文社, 『小説宝石』, 3月号		PP. 76~83	無
31	安田喜憲	震災復興と防潮堤	単著	2015年3月	森林環境2015		PP. 128~138	有
32	安田喜憲	いのちの持続	単著	2015年3月	MOKU 3月号		PP. 74~79	無
33	小川さやか	Living for Today の 人類学第4回「中国 とアフリカにみる 「下からのグローバ ル化」	単著	2015年3月	光文社, 『小説宝石』, 4月号		PP. 100~107	無
34	モリカイネ イ	華人プロテスタント 信者の越境的連結： 「中国信徒布道会」 をめぐる一考察	単著	2015年3月	立命館大学大学院先端総合学 術研究科, 『Core Ethics』, 11 号		PP. 171~182	有
35	岩田京子	1930年代の京都にお ける風致林保全の学 知の動態	単著	2015年3月	NPO 法人社叢学会, 『社叢学 研究』, 13号		PP. 22~31	有
36	岩田京子	風景思想の転換に参 与したローカルエリ ートー小林吉明によ る京都市郊外の風致 保全・保勝事業を事 例に	単著	2015年3月	立命館大学大学院先端総合学 術研究科, 『Core Ethics』, 11 号		PP. 1~11	有
37	北川淳子	水月湖年縞の発見と 環境考古学の発展	単著	2015年3月	ナチュラリスト73		PP. 1~2	無

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	富田敬大	変りゆくモンゴル牧畜社会ー都市近郊に おける定着化政策と牧畜経営の実態	2014年4月24日	第3回定例研究会, 衣笠キャンパス	
2	中村大	私たちはいかに語ることができるか?ー 研究の説明力向上と学習素材としての活 用可能性ー	2014年4月26日	第246回近江貝塚研究会, 滋賀県大津市・ 滋賀県埋蔵文化財センター	

3	篠塚良嗣, 山田和芳	秋田県一ノ目潟のピストン・コア堆積物から得られた過去 7000 年間の古地磁気永年変化の記録	2014 年 4 月 30 日	日本地球惑星科学連合, JGU2014, 神奈川県	安樂和央, 林田明, 原口強, 五反田克也, 米延仁志
4	篠塚良嗣, 山田和芳	氷河湖堆積物に記録されるペルー南部における完新世の環境変化	2014 年 4 月 30 日	日本地球惑星科学連合, JGU2014, 神奈川県	瀬戸浩二, 原口強, 米延仁志
5	中村大	関西縄文研データベースの設計について	2014 年 5 月 10 日	関西縄文文化研究会 2014 年 4 月例会, 衣笠キャンパス	
6	Chie Ishida	Nationality and descent in legal problems over the Japanese migration	2014 年 5 月 15 日	International Union of Anthropology and Ethnology, The Future with/of Anthropologies, 東京・幕張メッセ	
7	Sayaka Ogawa	The Unionization of Street Traders: The Riots and Politics of the Street in Tanzania	2014 年 5 月 16 日	International Union of Anthropology and Ethnology, The Future with/of Anthropologies, 東京・幕張メッセ	
8	Takahiro Tomita	Changing Strategies of Pastoral Management and Mobility in the Suburban Areas of Post-Socialist Mongolia	2014 年 5 月 16 日	International Union of Anthropology and Ethnology, The Future with/of Anthropologies, 東京・幕張メッセ	
9	Hiroshi Kondo	Land use and Hunting: property relationships of the Embera's contemporary life	2014 年 5 月 17 日	International Union of Anthropology and Ethnology, The Future with/of Anthropologies, 東京・幕張メッセ	
10	矢野健一	縄文土器と土製品の胎土中における添加された砂粒	2014 年 5 月 18 日	日本考古学協会第 80 回総会, 東京都世田谷区・日本大学文理学部	柳原麻子
11	中村大	日本考古学および文化遺産に関するオンライン英語教材の開発	2014 年 5 月 18 日	日本考古学協会第 80 回総会, 東京都世田谷区・日本大学文理学部	Simon Kaner , Donald Henson
12	岩田京子	「場所」の構築をめぐるコンフリクトの調停——京都・嵐山における景観保全のための住民組織の活動を手がかりに	2014 年 5 月 18 日	日本文化人類学会第 48 回研究大会, 東京・幕張メッセ	
13	篠塚良嗣	秋田県一ノ目潟年縞堆積物を用いた東北日本の環境史復元	2014 年 5 月 29 日	第 4 回定例研究会, 衣笠キャンパス	
14	近藤宏	土地所有と資源管理のはざまの先住民共同体—パナマ東部先住民エンベラによる自治の現在	2014 年 6 月 8 日	日本ラテンアメリカ学会第 35 回定期大会, 大阪・関西外国語大学	
15	Atsushi Uemine	Paleoliths from MIS 5 to 7 Discovered Recently in Shimane Prefecture, Japan	2014 年 6 月 9 日	Sixth Worldwide SEAA Conference, Ulaanbaatar	Kazuto Matsufuji, Masaki Shibata
16	Atsushi Uemine	Recovery of the Old Ground Surfaces at Sunabara Site in Shimane Prefecture, Japan	2014 年 6 月 11 日	Sixth Worldwide SEAA Conference, Ulaanbaatar	Kazuto Matsufuji, Masaki Shibata
17	高橋学	環太平洋地域における災害とゴミ問題	2014 年 6 月 23 日	JICA Kobe, 西宮市役所東館	
18	高橋学	環太平洋地域の災害 I —南米チリを中心として—	2014 年 6 月 24 日	第 5 回定例研究会, 高橋学教授チリ帰国記念特別報告会, 衣笠キャンパス	
19	Hiroshi Kondo	The skin as a site of composition	2014 年 6 月 28 日	Society for Anthropology of Lowland South America, IX Sesquianual Conference of the Society for the Anthropology of Lowland South America (SALSA), Gotenberg・University of Gotenberg	
20	矢野健一, 中塚良, 佐々木尚子	京都盆地中西部低地、向日市寺戸川縦坑・河床堆積層の文化財科学的研究	2014 年 7 月 5~6 日	日本文化財科学会第 31 回大会, 奈良市・奈良教育大学	
21	上峯篤史	斑晶に着目した新しい石器観察法の提案	2014 年 7 月 5~6 日	日本文化財科学会第 31 回大会, 奈良市・奈良教育大学	
22	上峯篤史	蛍光X線分析によるサヌカイトの原産地推定に前処理は必要か?	2014 年 7 月 6 日	日本文化財科学会第 31 回大会, 奈良市・奈良教育大学	高木康裕, 竹原弘展, 朝井琢也
23	中村大	関西縄文研データベース作業状況報告	2014 年 7 月 26 日	関西縄文文化研究会 2014 年 7 月例会, 大阪府堺市・大阪府教育委員会査事務所	
24	Yoshitsugu Shinozuka, Kazuyoshi Yamada	Holocene Paleomagnetic Secular Variation Recorded in Lake Sediments of the Ichi-no-megata Marr	2014 年 8 月 1 日	Northeast Japan, Asia Oceania Geosciences Society (AOGS), AOGS2014, Sapporo	Kazuhiro ANRAKU, Akira HAYASHIDA, Tsuyoshi HARAGUCHI, Katsuya GOTANDA, Hitoshi YONENOBU

25	Yoshitsugu Shinozuka, Kazuyoshi Yamada	Magnetic Properties of the Holocene Lake Sediments in Tonle Sap, Cambodia	2014年8月1日	Northeast Japan, Asia Oceania Geosciences Society (AOGS), AOGS2014, Sapporo	Taisuke SAJI, Akira HAYASHIDA, Tsuyoshi HARAGUCHI, Hitoshi YONENOBU, Koji SETO, Yu FUKUMOTO
26	Takahiro Tomita	Changing Strategies of Pastoral Management and Mobility in the Suburban Areas of Post-Socialist Mongolia	2014年8月8日	International Institute for Asian studies, Changing patterns of power in historical and modern central and inner Asia, Ulaanbaatar ・ Ulaanbaatar University	
27	矢野健一	マーク・ディオンー素材としての考古学	2014年8月10日	第2回京都 Art & Archaeology フォーラム, 京都市中京区・京都文化博物館	渡辺裕穂
28	中村大	関西縄文研データベース作業状況報告	2014年8月30日	関西縄文文化研究会, 2014年8月例会, 愛知県豊橋市・豊橋市文化財センター	
29	北川淳子	Detecting the exact timing of paddy field landscape, formation using varved sediments	2014年8月31日	Japan-German Satoyama Forum 2014 in Fukui “Perception and valuation of Satoyama Ecosystems, Approach from Natural Science, Economics and the Arts”, Fukui	
30	藤木利之	長崎湾飽の浦沖ボーリングコアの化石花粉群集からみた完新世の古植生変遷	2014年9月13日	日本花粉学会, 第55回大会, 札幌市北区・北海道大学	
31	Atsushi Uemine	From inter-site variability of lithic assemblage to ancient inter-site relationship	2014年9月24日	International Obsidian Workshop for Young Scientists, Nagawa town	
32	矢野健一	縄文早期後半の滑石含有土器—兵庫県養父市熊野田山遺跡出土土器紹介	2014年9月28日	関西縄文文化研究会 2014年9月例会, 京都府舞鶴市・舞鶴市商工観光センターまいづるベイプラザ	
33	上峯篤史	京都府舞鶴市志高遺跡出土の北海道産黒曜岩をめぐる	2014年9月28日	関西縄文文化研究会 2014年9月例会, 舞鶴市商工観光センターまいづるベイプラザ	
34	TOMITA, Takahiro	Animal Classification and Recognition by Pastoralists: A Comparative Analysis of Turkey and Mongolia	2014年10月8日	the 21th Symposium of the International Committee of Pre-Ottoman and Ottoman Studies, Budapest, Hungarian academy of sciences	
35	森下直紀	北米環境と流域管理—流域管理と自然保護地域の関係について	2014年10月31日	第6回定例研究会, 衣笠キャンパス	
36	北川淳子	水月湖年縞堆積物の構造と環境学研究の可能性 (招待講演)	2014年11月13日	日本土壌肥料学会中部支部例会, プラザ萬象	
37	上峯篤史	日本列島最古の遺跡をもとめて	2014年11月28日	第7回定例研究会, 衣笠キャンパス	
38	中村大, 矢野健一	縄文遺跡データベース作成中間報告	2014年12月6日	第15回関西縄文文化研究会研究集会「縄文遺跡データベースの作成と利用」, 福井県小浜市・福井県立若狭歴史博物館	
39	松森智彦	ゾーン集計を用いた遺跡立地の定量的分析—富山県の縄文遺跡を対象に—	2014年12月6日	第15回関西縄文文化研究会研究集会「縄文遺跡データベースの作成と利用」, 福井県小浜市・福井県立若狭歴史博物館	
40	上峯篤史	『日本列島の旧石器時代遺跡』データベースの活用	2014年12月7日	第15回関西縄文文化研究会研究集会「縄文遺跡データベースの作成と利用」, 福井県小浜市・福井県立若狭歴史博物館	
41	大野薫	歴博士偶データベースの概要と課題	2014年12月7日	第15回関西縄文文化研究会研究集会「縄文遺跡データベースの作成と利用」, 福井県小浜市・福井県立若狭歴史博物館	
42	松森智彦, 中村大	ポスター発表「防長風土進案」記載の魚類と村落: 系統樹による村落の階層化と特徴的魚類の検出	2014年12月13~14日	人文科学とコンピュータシンポジウム「じんもんこん 2014」オープン化するヒューマニティーズ ~ その可能性と課題を考える ~, 東京都千代田区・国立情報学研究所一橋講堂	五島淑子
43	渡辺公三	パネルディスカッション—環境・災害・人類を知るための多分野共同研究	2014年12月19日	R-GIRO シンポジウム「アジアの環境変化と人類」, 衣笠キャンパス	
44	高橋学	パネルディスカッション—環境・災害・人類を知るための多分野共同研究—	2014年12月19日	R-GIRO シンポジウム「アジアの環境変化と人類」, 衣笠キャンパス	
45	矢野健一	パネルディスカッション—環境・災害・人類を知るための多分野共同研究—	2014年12月19日	R-GIRO シンポジウム「アジアの環境変化と人類」, 衣笠キャンパス	

46	富田敬大	モンゴル牧畜社会と環境との関わり	2014年12月19日	R-GIRO シンポジウム「アジアの環境変化と人類」、衣笠キャンパス	
47	篠塚良嗣	年縞から読み取る災害が文明興亡に与えた影響	2014年12月19日	R-GIRO シンポジウム「アジアの環境変化と人類」、衣笠キャンパス	
48	中村大	環境変化が人口変動に与えた影響：遺跡データベースの作成から	2014年12月19日	R-GIRO シンポジウム「アジアの環境変化と人類」、衣笠キャンパス	
49	松森智彦	近世村落の産物構成と立地・近接関係の比較 —『防長風土注進案』記載の農作物および採集品を対象に—	2014年12月20日	第20回公開シンポジウム「人文科学とデータベース」、大阪府東大阪市・近畿大学東大阪キャンパス	
50	安田喜憲	古墳寒冷期と古墳文化の展開	2014年12月22日	九州・宗像シンポジウム「対馬海峡と古墳文化」、福岡県宗像市・海の道むなかた館	
51	矢野健一	パネルディスカッション「古墳時代の北部九州へアジアとどのような交流をしていたのか」	2014年12月23日	九州・宗像シンポジウム「対馬海峡と古墳文化」、福岡県宗像市・海の道むなかた館	
52	富田敬大	モンゴル国北部地域における集団化と土地利用—ボルガン県の事例をもとに	2015年1月11日	地域研究コンソーシアム次世代WS『近現代モンゴルにおける人間＝環境関係の変容』、札幌市北区・北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター	
53	中村大	縄文時代の墓にみられる格差はいかに理解可能か？	2015年1月30日	第255回近江貝塚研究会「燃える社会の複雑化」、滋賀県大津市・滋賀県埋蔵文化財センター	
54	山田和芳	Potential of reconstruction for environmental history from the annually laminated sediments in Japan	2015年2月27日	ふじのくに地球環境史ミュージアム特別セミナー、静岡県庁文化・観光部第2会議室	Suk Chang Lee
55	富田敬大	移行経済下の都市周辺地域における畜産経営の実態とその特徴—乳・乳製品生産に着目して	2015年3月7日	シンポジウム「畜産物の流通にみるモンゴル高原のグローバリゼーション」、宮城県仙台市・東北大学東北アジア研究センター	
56	中村大	考古学的分析手法にアートを採る	2015年3月25日	第6回京都 Art & Archaeology フォーラム、京都市中京区・京都文化博物館	

4. 主催したシンポジウム・研究会等

No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	第3回定例研究会	衣笠キャンパス	2014年4月	13名	
2	国際ワークショップ「How Forests Think 森はいかに思考するのか」	衣笠キャンパス	2014年5月	51名	
3	第4回定例研究会	衣笠キャンパス	2014年5月	16名	
4	第5回定例研究会 高橋学教授 チリ帰国記念特別報告会	衣笠キャンパス	2014年6月	18名	
5	第6回定例研究会	衣笠キャンパス	2014年10月	8名	
6	第7回定例研究会	衣笠キャンパス	2014年11月	19名	
7	第15回関西縄文文化研究会研究集会 「縄文遺跡データベースの作成と利用」	福井県 若狭歴史博物館	2014年12月	38名	立命館グローバル・イノベーション研究機構 「年縞を軸とした環太平洋文明研究拠点」
8	R-GIRO シンポジウム 「アジアの環境変化と人類」	衣笠キャンパス	2014年12月	116名	立命館グローバル・イノベーション研究機構、 立命館大学古気候学研究中心
9	尾関清子寄贈資料受入記念講演会・体験教室 考古学・人類学からみた布と編みカゴ	衣笠キャンパス	2014年12月	29名	立命館グローバル・イノベーション研究機構 「年縞を軸とした環太平洋文明研究拠点」
10	九州・宗像シンポジウム 「対馬海峡と古墳文化」	福岡県宗像市 海の道むなかた館	2014年12月	127名	宗像市、NPO 法人ものづくり生命文明機構

5. その他研究活動（報道発表や講演会等）

No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	安田喜憲	環太平洋の災害と文明	電気新聞	2014年4月9日
2	安田喜憲	森の人類史的影響示す	毎日新聞	2014年4月15日
3	高橋学	震災前年と直後にも「皆既月食」は大地震の前兆なのか	日刊ゲンダイ	2014年4月15日
4	高橋学	1923年から現在までの日本列島周辺で発生したマグニチュード1以上の地震を取り上げたデータベースの作成について	テレビ朝日「サンデースクランブル」	2014年5月5日

5	高橋学	GW地震「首都直下と無関係」気象庁発表を信じていいのか	日刊ゲンダイ	2014年5月8日
6	モリカイネイ	華人キリスト者のトランスナショナリズム—モデル構築の試み	「東アジアにおけるキリスト教の越境と交流」プロジェクト研究会, 平成26~28年度科学研究費(学術研究助成基金助成金) 挑戦的萌芽研究「日本のカトリック教会による移住・移動者支援の実証的研究」(研究代表者:白波瀬達也), 東京・東洋大学	2014年5月10日
7	小川さやか	現代のこぼれ祭り	京都新聞	2014年5月19日
8	小川さやか	仕事は仕事のダイナミズム—中国—アフリカ間の模造品/インフォーマル取引の活性化	大阪北ロータリークラブ例会, 大阪・新阪急ホテル	2014年5月21日
9	安田喜憲	三保松原のマツが枯れる	電気新聞	2014年5月28日
10	北川淳子	水月湖年縞の魅力	若狭観光連盟総会, 若狭町レピア	2014年6月9日
11	小川さやか	路上空間は誰のもの?	阪神シニアカレッジ・マイスターゼミナール, 神戸・尼崎女性センター	2014年6月12日
12	千葉豊	吉備の貝塚が縄文土器研究に果たした意義	第2回史跡彦崎貝塚歴史講演会, 岡山市・灘崎公民館大会議室	2014年6月21日
13	小川さやか	模造品の増殖を促す複ゲーム状況—エージェンシー研究の展望と可能性	民博共同研究会『エージェンシーの定位と作用—コミュニケーションから構想する次世代人類学の展望』, 大阪・国立民族学博物館	2014年7月5日
14	安田喜憲	二見浦と富士山	電気新聞	2014年7月10日
15	高橋学	今夏は台風頻発か 東京を襲う想定外の地すべり、土砂災害	日刊ゲンダイ	2014年7月11日
16	北川淳子	年縞の概要や作業解説	毎日新聞 環境面	2014年7月13日
17	北川淳子	奇跡の湖 水月湖の年縞について	若狭路さとうみフェスティバル, 若狭町縄文博物館	2014年7月21日
18	小川さやか	2014年上半期の収穫から	週刊読書人	2014年7月25日
19	外山秀一	失われつつある日本文化の地域性と多様性	みえアカデミックセミナー2014, 公開講座, 三重県生涯学習センター	2014年8月8日
20	高橋学	小笠原諸島・西ノ島斜面崩壊リスクで早まる首都直下地震	日刊ゲンダイ	2014年8月21日
21	安田喜憲	女民俗学の確立	電気新聞	2014年8月25日
22	高橋学	起きない場所で地震急増「南海トラフ」動き出したのか	日刊ゲンダイ	2014年9月5日
23	高橋学	1923年から現在までの日本列島周辺で発生したマグニチュード1以上の地震を取り上げたデータベースの作成について	フジテレビ「ミスターサンデー」	2014年9月7日
24	千葉豊	但馬の縄文土器—小路頃オノ木遺跡と小森岡遺跡—	兵庫県生活文化大学考古学講座, 兵庫県民会館3階303号室	2014年9月12日
25	高橋学	広島県広島市八木地区を中心に発生した土石流災害	読売新聞 7面	2014年9月18日
26	高橋学	東京都の指定した災害避難場所の安全性について全地点の土地条件を分析	日刊ゲンダイ	2014年9月27日
27	中村大	縄文を語ろう	フォーラム第1回「縄文大好き集まれ!」, 札幌市中央区・現代芸術 gallery CAI02	2014年10月4日
28	矢野健一	縄文時代研究の現状と課題	日曜連続講座 平成版日本考古学の現状と課題, 大阪府堺市・堺市博物館	2014年10月5日
29	安田喜憲	現場にいた人でないとわからない	電気新聞	2014年10月7日
30	小川さやか	もう一つのチャイニーズドリーム	第10回MUCL講演会, 千葉市・神田外語大学	2014年10月10日
31	高橋学	日本最悪のシナリオ徹底討論スペシャル!	よみうりテレビ「たかじんのそこまで言って委員会」	2014年10月12日
32	高橋学	火山列島ニッポン 緊急検証SP	テレビ朝日「ビートたけしのTVタックル」	2014年10月13日
33	篠塚良嗣	湖沼年縞堆積物を用いた無機分析に基づく環境史復元	第16回ライスボールセミナー, 衣笠キャンパス	2014年10月14日
34	中村大	考古学とデータベース 数字で読み解く縄文時代	第18回ライスボールセミナー, 衣笠キャンパス	2014年10月28日

35	富田敬大	モンゴル遊牧民と自然環境のかかわりー近現代における社会経済変動と環境変化	第19回ライスボールセミナー、衣笠キャンパス	2014年11月4日
36	森下直紀	入会地とコモンスズ	映画を通じて問いなおす「記憶」の形成」プロジェクト・映画『こつなぎ山を巡る百年物語』上映会、衣笠キャンパス	2014年11月16日
37	安田喜憲	地方創生に思う	電気新聞	2014年11月21日
38	北川淳子	福井観光コンベンション賛助会員 誘客へ嶺南の魅力実感	福井新聞	2014年11月27日
39	北川淳子	北潟湖堆積物を採取	日刊 県民福井	2014年12月9日
40	北川淳子	湖底堆積物の初調査	中日新聞	2014年12月11日
41	Yoshinori Yasuda	International Significance of Hanon Maar restoration and cooperation agenda	2014 International Symposium, Jeju Korea	2014年12月12日
42	小川さやか	タンザニアのたくましい路上商人	高大連携事業、京都堀川高校	2014年12月17日
43	渡辺公三	布の人類学ー中央アフリカ、クバ王国ラフィア染織を手掛かりに	考古学・人類学からみた布と編みカゴ、衣笠キャンパス	2014年12月20日
44	矢野健一	体験教室 道具を使わずに縄文の布を編もう	考古学・人類学からみた布と編みカゴ、衣笠キャンパス	2014年12月20日
45	森下直紀	水俣学講義「水とコモンスズー水源管理としての米国国立公園・国有林」	熊本市・熊本学園大学	2015年1月8日
46	高橋学	震災から4年…「東日本」の火山で“大噴火”迫ると専門家警告	日刊ゲンダイ	2015年1月9日
47	森下直紀	『水俣病解決策、現場に学んで』和光大・森下さんが講義	熊本日日新聞	2015年1月9日
48	矢野健一	縄文人はなぜ稲作を始めたのか？	市民歴史大学「縄文から弥生へ」、大阪府柏原市・柏原市歴史資料館	2015年1月17日
49	安田喜憲	戦後70年に思う	電気新聞	2015年1月20日
50	北川淳子	里山里海湖研究所主任研究員に聞く「年縞」を研究/地域密着の教育活動	電気新聞 マンスリー福井	2015年2月12日
51	高橋学	南海トラフ地震秒読みか 関西一帯で続く“異変”に専門家警告	日刊ゲンダイ	2015年2月17日
52	矢野健一	口酒井遺跡からみる縄文から弥生へ	第20回 文化財ボランティア養成講座(第4回)、兵庫県伊丹市・伊丹市立中央公民館	2015年2月17日
53	中村大	第5回 縄文土偶の世界 遺物に見る精神文化	NHK文化センター名古屋教室講座「最新研究が解明する縄文時代」、名古屋市東区・NHK名古屋放送センター	2015年2月22日
54	大野薫	縄文人の心ー土偶の研究と船橋遺跡ー	冬季企画展「河内の美・技・心ー考古学研究と船橋遺跡ー」講演会、大阪府和泉市・大阪府立弥生文化博物館	2015年2月28日
55	高橋学	地震予測スペシャルー巨大地震から命を守れ！	フジテレビ「Mr.サンデー」	2015年3月8日
56	安田喜憲	真冬の桜	電気新聞	2015年3月9日
57	安田喜憲	第2部いのちを守る森づくりーコンクリート防潮堤と森の防潮堤ー	第3回国連防災世界会議パブリック・フォーラム 森の防潮堤 推進シンポジウム、仙台市情報・産業プラザ多目的ホール	2015年3月17日
58	北川淳子	人間活動の歴史解明へ	福井新聞	2015年3月20日
59	北川淳子	三方湖五湖の堆積物採取	日刊 県民福井	2015年3月21日

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	なし				

7. 科学研究費助成事業						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	渡辺公三	環境考古学を基軸とした人類学的「環太平洋文明学」の構築	基盤研究(A)	2013年10月	2017年3月	代表
2	安田喜憲	環境考古学を基軸とした人類学的「環太平洋文明学」の構築	基盤研究(A)	2013年10月	2017年3月	分担
3	高橋学	環境考古学を基軸とした人類学的「環太平洋文明学」の構築	基盤研究(A)	2013年10月	2017年3月	分担
4	矢野健一	環境考古学を基軸とした人類学的「環太平洋文明学」の構築	基盤研究(A)	2013年10月	2017年3月	分担
5	石田智恵	環太平洋における在外日本人の移動と生業	基盤研究(A)	2013年4月	2018年3月	分担
6	小川さやか	アフリカにおける地方経済活性化と資源保全に関する実証研究—タンザニアの事例	基盤研究(A)	2013年4月	2018年3月	分担
7	那須浩郎	古代と中世における農耕地雑草の多様性変化と人間活動の関係	基盤研究(B)	2013年4月	2016年3月	代表
8	藤木俊之	火山噴火の植生へのインパクトと回復プロセスの高分解能な復元	基盤研究(C)	2014年4月	2017年3月	代表
9	小川さやか	中古品と非正規品の越境取引にみる現代アフリカの消費文化に関する研究	若手研究(B)	2012年4月	2016年3月	代表
10	森下直紀	先住民とカナダ水俣病の環境正義をめぐる環境史	若手研究(B)	2013年4月	2017年3月	代表
11	石田智恵	〈二世〉から見るブエノスアイレス都市社会の編成と変容：移民と市民の人類学的研究	特別研究員奨励費	2014年4月	2017年3月	代表
12	森下直紀	病障者の地域活動・移行支援に関する制度・組織・人材のあり方についての研究	挑戦的萌芽研究	2013年4月	2016年3月	分担
13	近藤宏	気候変動の政治経済と中南米低地先住民の所有実践	研究活動スタート支援	2013年4月	2015年3月	代表

8. 競争的資金等(科研費を除く)						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	上峯篤史	斑晶観察法による日本列島「前期旧石器」の再検討	高梨学術奨励基金	2014年4月	2015年3月	代表
2	富田敬大	近現代モンゴルにおける人間＝環境関係の変容に関する研究	高梨学術奨励基金(若手研究助成)	2014年4月	2015年3月	代表
3	富田敬大	モンゴル都市周辺地域における家畜預託の実態とその変容についての歴史人類学的研究	三島海雲記念財団 学術研究奨励金	2014年7月	2015年6月	代表
4	矢野健一	ロボットを利用した水中遺跡探査法の開発とこれに伴う調査	研究推進プログラム(科研費連動型)	2014年6月	2015年3月	代表
5	安田喜憲	年縞環境史による文明の興亡と歴史の展開の研究	研究推進プログラム(科研費連動型)	2014年8月	2015年3月	代表

9. 知的財産権								
No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録(特許)番号	国
1	なし							

以上